

山形県立置賜農業高等学校

農業高校として「質の高い学習」を！

～MPSの実践から地域農業のスペシャリスト育成をめざす～

山形県立置賜農業高等学校(吉田直史校長)は創立125周年を迎えた伝統校です。3学科(生物生産科・園芸福祉科・食料環境科)生徒数209名の生徒が、園芸・米・野菜・果樹・畜産・食料・食品加工・福祉に分かれて学んでいます。

MPSの取組は2019年2月よりはじめ、2020年4月にMPS-ABCの認証を受けることができました。



園芸福祉科3年生の写真 実習を終えて

MPS認証を活かした学習活動

現在、園芸福祉科1年生から3年生の生徒を中心に、科目「総合実習」「生物活用」「課題研究」「草花」の学習で「ダリア」「シクラメン」「サイネリア」「花壇苗」「アスター」「洋ラン類」等を教材として学習しています。座学と実習をととした栽培の基本と流通や経営を学ぶ段階で、高品質生産や市場性の高いブランド力を持たせ、消費者に自信をもって提供できることを実践的に学習しています。MPS認証は、肥料・農薬・エネルギー・水・実習における安全対策等を記録し、常に問題意識をもってより良い方向に改善することを学ぶことができます。草花の栽培は、自然や栽培環境を科学的に捉え的確な管理が求められます。これまで、植物バイオテクノロジーの莖頂培養で作出したウイルスフリーダリア(無病苗)の作出に成功し、本校オリジナル品種「十七彩(ジウナサイ)」を栽培、切り花40本を昨年の7月には中国の北京に輸出、現地で高い評価を得て完売出来ました。品質の良い草花を栽培できることを通して経営・流通に精通したスペシャリストの育成をめざし、日々の学習に一段と力が入っています。

※十七彩の名前の由来：高校2年生で学ぶ「植物バイオテクノロジー」学習で作出したダリアの品種



ダリア 本校オリジナル品種「十七彩」



中国北京の生花店にて

山形県立置賜農業高等学校 教諭 遠藤忠樹